



北里大学同窓会栃木県支部  
支部会ニュースNo.38  
公開講演会2023のお知らせ  
2023年4月1日発行

[滝1]

北里大学同窓会栃木県支部 公開講演会  
「新千円札の顔 北里柴三郎の人となり」  
北里柴三郎記念館館長(熊本県小国町)  
北里大学名誉教授 北里 英郎 先生

北里大学同窓会栃木県支部  
支部長 滝 龍雄

すでにお知らせしました通り、以下の要領で栃木県支部公開講演会を開催します。

日時：6月11日(日) 午後2時より

場所：ニュー・イタヤホテル(宇都宮)

講師：北里柴三郎記念館館長、北里大学名誉教授  
北里英郎先生(北里柴三郎博士の曾孫)



本講演会は北里大学同窓会、北里大学医学部同窓会栃木支部、及び下野新聞の後援を受けて、対面とリモートのハイブリッドで広く栃木県民の皆様に公開講演会として開催します。

北里先生は長く医学部、医療衛生学部で学生の教育・実習を担当されて

てきましたので、教わった会員も多いと思います。講演会後、感染予防対策を施した上で北里先生との懇親会(参加費5,000円)も同ホテル内で開催します。

本支部会ニュースには公開講演会のポスターと返信用はがきを同封してあります。ポスターは目立つところに掲示し、宣伝して下さい。公開講演会及び懇親会への参加は同封の返信はがき、或いは支部ホームページにある「公開講演会・懇親会申込記入フォーム」をご利用ください。ポスターの追加を必要な方は支部長までお知らせ下さい。

尚、申込に際し、対面参加もリモート参加も共に先着100名とします。対面参加の希望は1申込みに着き4名以内とさせていただきます。申し込みを受け付け後、入場用のはがきを送りますので当日ご持参ください。リモート参加は支部長(tatabox@kitasato-u.axc.jp)宛に必ずメールで申込んで下さい。後程招待メールを送ります。

## 支部会員の近況報告

近況報告は栃木県支部 HP 内「皆さまからの近況報告」のページに掲載させて頂いております。そちらをご覧ください。

## 水産学部(現・海洋生物科学部)卒の 坂井広人です

2002年に水産学部を卒業した坂井広人と申します。学部生の時は、三陸沿岸に生息する渦鞭毛藻類の研究をしていました。私は2004年に県立高校の理科教員と採用され、栃木農業高校と佐野女子・佐野東高校で勤務し、2014年から2021年までは栃木県立博物館で学芸員として勤務しました。現在は、小山北桜高校におります。教員から学芸員になった1年目はいろいろな意味で大変でした。博物館に赴任して私の担当は、菌類(キノコ)、地衣類、蘚苔類、変形菌類、藻類になりました。前任者からの引継ぎで、県民からの質問が多く寄せられるキノコは専門として勉強してほしいと要望がありました。私は小学生の時に毒キノコ(ニガクリタケ)を誤って食べて死にかけた経験があり、それ以来、キノコは宿敵であり、苦手な生物でした。しかし、仕事で強制的に向き合う中で、だんだんと好きになり、友達になりました。キノコが縁となり、全国放送のテレビ番組(ニュースエブリ)やラジオ番組に出演できました。



地衣類調査中の坂井



サクラに着生するウメノキゴケ

キノコと並行して、地衣類を専門に調査研究しました。多くの地衣類にはコケという名前が付いていますが、蘚苔類のコケではありません。地衣類はキノコと同じ菌類の仲間、体は菌糸からできています。地衣類は菌糸の間に光合成ができる藻類を共生させ、成長に必要な栄養をつくってもらっています。藻類は光が必要なので、地

衣類は光が当たる場所に生息しており、発生する環境と時期が決まっているキノコとは違い、地衣類は一年中、どこでも出会うことができます。サクラやウメの木によく着生する地衣類に「ウメノキゴケ」があります。乾燥している時は白色で雨に濡れると緑色に変わります。表面を指で触るとざらざらしているのが特徴です。ウメノキゴケは体の表面から成長に必要な空気や栄養、水を吸収するので、自動車の排出ガスに含まれる二氧化硫黄などの大気汚染の影響を受けやすく、この理由からウメノキゴケを都市部で見つけることは難しいです。都市部において大気汚染により地衣類が全滅してしまう現象は「地衣砂漠」と呼ばれています。ウメノキゴケが見つかれば空気がきれいな環境という証拠になるので、その分布を調べることで自分が住んでいる地域の環境評価ができます。木や岩の表面のコケだと思っていたものは地衣類かもしれません。お時間がある時に、地衣散歩に出かけてみてはいかがでしょうか。

2019年には、自身の集大成となるキノコと地衣類の企画展示を開催することができ、多くの方に展示を見ていただくことができました。県からの委託事業として、現在でも継続して栃木県内の地衣類の分布調査を行っています。高校の授業では、これからも生徒たちへキノコと地衣類の魅力を発信していけるように、頑張っていると思います。

## ブチ毛の馬(ライフ・イズ・ビューティフル号)の絵を描きました

V4 岸 善明

コロナ禍で私が毎年出展している美術展が2020年、2021年に休止となりました。90年の歴史を誇る美術展で、休止は太平洋戦争以来の出来事でした。

やっと、2022年に美術展の再開が決まりました。大型作品の製作は想像以上に体力を消耗しますので、高齢になる程辛いものがあります。私も高齢者、3年ぶりの大型作品の製作は大変でしたが、何とか作品(写真)を完成させて東京に送りだしました。

2022年に完成させた作品ですが那須トレーニングファームで開催された馬術大会で見つけた大障害馬術競技に参戦中の人馬を描きました。馬は那須トレーニングファームの社長である広田龍馬氏所有のスウェーデン産のブチ毛の馬、ライフ・イズ・ビューティフル号(以下、ビューティフル号)、騎乗者は広田氏の奥様です。2017年の春の馬術大会でビューティフル号のブチ毛の馬体が実に美しかったので暫く見ておりました。その時の成績は特別なものではありませんでしたが、馬が気に入り絵の構想を練り始めました。ところがです。この年の秋からビューティフル号の快進撃が始まり、2018年に大障害全日本チャンピオン、FEIジャンピング・ワールドカップ 日本代表馬となりました。2019年4月スウェーデンで開催されたFEIジャンピング・ワールドカップでは並みいる世界のエリートホース達と戦い24位と善戦しました。

私が展覧会の作品として描くテーマは牛と馬です。牛と馬は御存知のとおり牧場で管理されておりますが牛では共進会、馬では競技会等のイベントがあり見ることが出来ます。私は仕事でそれらに関わっていたので、素晴らしいこれぞと思う牛や馬を見る機会がありました。その時、出来るだけ関係者と牛や馬の話をして様々な情報を聞き関係する資料等を見る機会がありました。素晴らしい牛や馬には必ず関係者、特に牧場のオーナーとのドラマがあるもので、現場での話には感動する事がよくあります。



牧場やイベントで感動する牛や馬を発見した時には写真を撮影します。その時には必ず牛や馬に近づきます。直接皮膚に触り、特有の臭いを嗅ぎます。そして、動物の絵では目の表現が大切なので必ず目を観察するようにしています。

作品の制作は牧場やイベントでの取材等を基に構図を作るところから始まります。ある程度まで描いてゆくと行き詰まる事がよくあります。この様な場合、最終の手段として再度牧場やイベントに牛や馬を見に行きます。そこでの雰囲気を感じて、出来るだけ関係者に質問し、情報をいただきます。此の活動を何回か繰り返して、取材で知った事を思い出しながら作品を仕上げております。ヒトは先入観でモノを見る傾向があるので、少しでも不安な時にはできる限り現場に戻りたいと考えております。

2021年、ビューティフル号は19才(ヒトで換算すると60才代の後半)となり大障害の競技から撤退、2022年には中障害競技で活躍中です。因みに、秋の栃木国体では奥様が騎乗して優勝しました。広田氏は「馬もやることがないと一気に老け込みます。常に必要とされていることを感じてもらって、少しでも長生きして欲しい。」と、話されました。馬の老い、初めて聴く言葉ですが我が身と重ねて考えてしまいました。

最後になりましたが、元大障害競技日本チャンピオンのビューティフル号がスウェーデンから輸入、那須で調教され、今でも那須で幸せな馬生を送っている事を紹介します。